議事録		
議事録	会議名	朋有小学校・西巣鴨中学校校舎一体型小中連携校および総合体育場の整備等を考える会
議 題	1	開会
	2	考える会の目的と施設整備計画について
	3	講義：学校とスポーツの先進的な取組みについて
	4	その他
日 時	令和 7 年 7 月 8 日（火） 18：30～20：30	
場 所	朋有小学校 体育館	
出席者数	代田会長（朋有小学校 PTA 会長）、他委員 30 名 事務局（7 名） 傍聴人 2 名（朋有小学校教職員） 支援事業者：9 名	
会 議 内 容 (要 旨)		
<p><会の概要></p> <p>1. 開会</p> <p>○これまでの考える会の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1・2 回目の考える会では、「計画の概要を知れて良かった」「多様な考えを聞けて良かった」などという感想をいただいた。 ・一方で「説明時間が不十分」「質疑応答の時間が不足している」などの意見もいただいている。 ・運営面では、グループワークの目的が不明確であったこと、情報共有が不十分であったこと、基礎情報の共有が不十分のままグループワークを行ったことが課題として挙げられる。 ・今後は、上記課題点を踏まえ参加者の経験や発想力を活かせるような運営を行っていきたい。 <p>2. 考える会の目的と施設整備計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1～3 に基づき説明。 ・考える会の目的を説明 ・考える会の 5 つの活動を説明し、その活動で集約した意見などをもとに条件整理を行い、提言書を作成していくことを説明。 ・提言書の主な構成について、千川中学校建替えに関する提言書を参照し、説明コンセプト・基本方針・整備方針・配置方針の検討が主な構成である。 ・施設整備計画について説明 「児童数増加への対応」「小中連携教育の推進」「東部地域の学校改築の推進」「総合体育場の再整備」が改築計画の視点である。 ・計画の主なポイントについて説明 「朋有小学校と西巣鴨中学校を校舎一体型小中連携校として整備」「総合体育場の整備」「学校と総合体育場の一体的整備」「地域防災や地域コミュニティの拠 		

点」がおもなポイントである。

(質疑応答)

- ・学校選択制を導入しているのか。
→隣接校選択制を導入している。ただし、児童数増加により選択できない学校もある。特例的な指定変更制度も存在する。
- ・連携教育の中身を詳しく知りたい。
→小中一貫教育ではなく、連携教育を推進する。これは、小学校から中学校への移行期のギャップを埋めることを目的としている。隣接する小中学校間で、児童や教員同士の交流を深めることで、連携を強化していく。

3. 講義：学校とスポーツの先進的な取組みについて

<新しい時代の学び、学校のかたちとは>

- ・新しい時代の学びとは、社会の中で生きる力、社会の変化に対応する力を伸ばすことを指す。
- ・文部科学省の報告書では、「新しい学びに対応する学校施設」の必要性が強調されており、施設が「学びの場」を変える上で重要であるとされている。
- ・未来志向の施設とは、従来の学校の固定概念にとらわれず、自由に発想し、未来を創造する施設である。
- ・「新しい学びの中心となる施設」「地域と共に歩み、多様な地域を支える施設」「安心安全な環境を支える施設」の3つが大きな柱となる。
- ・「どんな学校を実現したいか」を創造的に考えることが重要であり、知識だけでなく、多様な人々が集い、共に学ぶ「場」としての学校が大切である。

<先端事例>

- ・キーワードは「みんなと一緒に」と「自分の居場所」。
- ・オープンな教室：先生の机がない、教室内に小部屋があるなど、多様な学習形態に対応できる空間。
- ・可変性のある教室：仕切りがなく、活動に合わせて空間を変えられる教室。学年全体が見渡せるような空間設計。
- ・「学びのエリア」：複数のクラスと先生が連携し、小スペースから広大なスペースまで選択できる場所。特別支援学級の児童も共に活動できるような設計。
- ・図書館の役割：単なる本の保管場所ではなく、学びの中心となる「空間」としての図書館。
- ・特別教室の活用：廊下側にも開かれ、本物に触れ、挑戦できる場を提供する。
- ・運動場と校舎の一体化：廊下がグラウンドに開かれ、学校全体で多様な活動を展開できる空間。
- ・「自分の場所」の多様性：固定された机だけでなく、様々な場所で学習できる環境を提供。

<小中連携・併設の可能性>

- ・小中連携の事例：同じ敷地内に小中学校を設置し、中庭を挟んで挨拶する、合同で学

習発表会を行うなどの取り組みがある。

- ・一体型の事例：小学校と中学校が同じ校舎内にあり、成長段階に応じた学習環境と教員の連携を促進する。
- ・総合施設としての学校：学校が地域に開かれ、多世代が交流する拠点となる。公民館や運動施設と一体化した学校施設がその例。災害時の避難所機能も併せ持つ。

<施設整備の課題と今後の検討>

- ・施設機能の重複回避と複合化：小中連携の場合、体育館などの施設を共有し、効率性を高める。
- ・多様な活動場所の確保：トレーニング室、多目的室、地域開放スペースなど、様々な用途に対応できる場所を確保する。
- ・地域との共生：図書館などを地域住民にも開放し、学校が地域の活動拠点となる。
- ・スマートシステム導入：時代の変化に対応できる新しい学習空間の構築。
- ・防災機能の強化：非常時に地域拠点としての役割を果たす。
- ・セキュリティの確保：地域開放と安全性の両立。

これらの課題は、「考える会」で議論し、皆で協力して解決策を見出すべきものである。

4. その他

- ・区民向けアンケートの実施
- ・7/13 ファーマーズマーケット告知

次回日程

7月頃下旬予定（別途お知らせいたします。）